

発行所
医療法人財団五省会西能病院
〒930 富山市五福1130
TEL (0764) 41-2481(代)
発行人 西能 正一郎

五省会ニュース

点字ブロックでけがをする

自転車がどんどん増えて、さまざまな自転車公害がおきている。なかでも、視覚障害者用の点字および線ブロックを寸断している風景が各所にみられる。これにたいし、県視覚障害者協会は、行政面での対策、指導と、取締まりの強化を機会あるごとに要望している。



富山ビル前の地下道に通ずる点字ブロックは自転車やバイクで完全にしゃ断されている

富山県で、点字、線ブロックを設けている市町は、富山、高岡、魚津、冰見、新湊、黒部（一部）上市（一部）である。このなかで、一番目立つ

富山・須田ビル前の自転車集団の妨害である。そして、デパート前や

中心街の歩道のあちこちが自転車の洪水。そのうえ、商店の看板や

歩道やブロックを不法占拠している。視覚障害者はもちろん、車イスも通

るわれわれの忘れてはならない心の大切さをあらためて、教えられ反省させられたのであります。

けれども、私は医療における倫理は医療がはじま

つて以来の根本思想であり、当然の事であつて今更

集り、日頃の研究を発表し、問題を討議する年回の祭典であります。私たちも四題の研究発表をたずさえて大挙参加したのであります。

学会のメインテーマは今年は「

医の倫理」とされ、マラソンシン

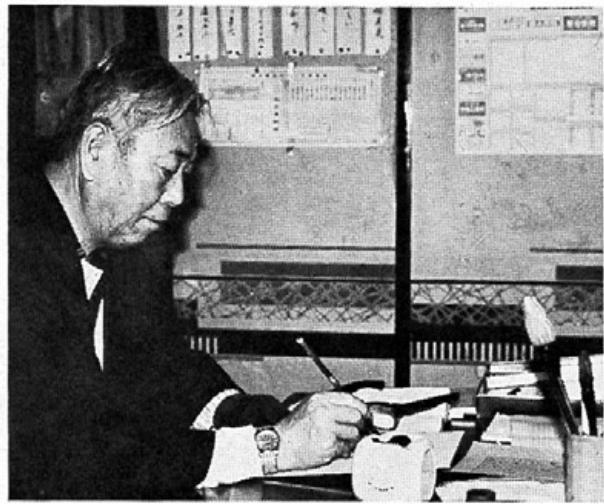
ポジアムといわれる、毎日二時間

の抑制作が現実になつて参ります

五省会ニュース

昭和57年11月29日

五省会ニュース



居間で俳句づくりに取り組む秀永さん

立ちはだかる医療法

「こんごの病院労務管理」

=西能院長の講演から=

社団法人・日本病院会主催の「全国庶務人事・労務合同研究会」は十月二十一、二十二日の両日、富山県医師会館で開かれた。参加者は、東京都、大阪府をはじめ十二県の二十九病院から百五十人。第一日目の午後から、西能正一郎院長(日本病院会会議員)が「病院の労務管理について」一時間講演し、「これからの病院は、少数精銳主義で、人材を育成していくことが大切だと、つぎのように強調した。(要旨)

—医療機関が社会から手厚い保護を受ける時代はすぎた。医療費にメスが入り、薬価基準の見直しなど、医療原価はコストダウンになつたが、これだけでは医療費の高騰を防ぐことはできない。材を育成していくことが、もうすぐ、人件費の削減を考えなければならないときがくる。

人件費を切りつめて病院の機能低下を避けるとすれば、少数精銳主義を

直していくしか他に方法はない。そこで立派な人材を育成していくことが大切だと、つぎのように強調した。(要旨)

田中さんは朝風呂をかきたいと遠くと達族のためといふことだ。夜の風呂は五人の家ばかりひと休み。このあと午前中は、俳句づくりにとりかかる。一日のうちで一番ハリのあるひとときである。午後は、雨さえ降らなければ、杖を頼りに家の近くをゆづくり散歩するのが日課である。毎週一回(木曜)は不自由な手足(軽度)のリハビリに福光町健康増進センターと、同町富田医院に通っている。

開口一番、「いまは主に俳句が友だちです。なによりの楽しみで生きがいです」というのをこう語った。昭和四十六年三月、五十九歳のとき、脳卒中で倒れ、左片麻痺で小矢部の中央病院に入院、四月に退院したが、左手足のしびれがひどく七月に再入院、しかし、よくなる見込みがなく八月に退院

したのが四十八年八月、ところが昨年春、廃刊になれたのが「医王」に入会し、俳誌「医王」に入会したこととは、嬉しいこと

大地を踏む

秀永田中さん(七)

大地を踏む

(10)

田中さんは朝風呂をかきたいと遠くと達族のためといふことだ。夜の風呂は五人の家

ばかりひと休み。このあと午前中は、俳句づくりにとりかかる。一日のうちで一番ハリのあるひとときである。午後は、雨さえ降らなければ、杖を頼りに家の近くをゆづくり散歩するのが日課である。毎週一回(木曜)は不自由な手足(軽度)のリハビリに福光町健康増進センターと、同町富田医院に通つて

した。「家では、雨の日に妻がいてくれましたが、天気の日は一人であります。テレビは唄つてもくれるし、語つてもくれますが、私の話は一つも聞いてくれません。さびしい毎日が続きました。この徒然

短歌、川柳でした。六十

が、福井市に千人の会員を持つ全国俳誌「花鳥(毎月一回発行)」があることを知り、今年二月に入会した。初出句の五句から二句が四月号に掲載された。その一句はー。

今朝一つ昨日一つ福寿草として、十月号に一句蒲の穂にしおからんぼがー。そして、十月号に一句がー。

リハビリ今生きがいに杖を持ちもう一つは、十月に福光町リハビリテーション

友の会の第七回手作り品展示会に出品した「背景板」(せいた)が町長賞授賞したことである。

背景板は、昔の人たちが発行している「生きがい」(年二回発行)や、北日本新聞の芸術欄、読者コーナーの常連である。田中さんは西能病院に入院していたことがある。

秀永田中さんは、福光町リハビリテーション友の会

が発行している「生きがい」(年二回発行)や、北日本新聞の芸術欄、読者コーナーの常連である。

田中さんは西能病院に入院していったことがある。

秀永田中さんは、福光町リハビリテーション友の会